

業界の精密データ

液晶ディスプレイ(LCD)市場解析(詳細例)

2005～2009年の世界カラーテレビ市場の発展過程から分かるのは、液晶テレビが徐々にCRT(ブラウン管)に取って替わっており、あわせてPDP、DLPなどその他のディスプレイ技術をおさえ、テレビ市場における絶対的主流技術となっている。2008年、世界の液晶テレビの市場販売台数ははじめてCRTを超え、1億台を突破した。

図1 2006～2009年における世界のテレビ市場規模(機種別)



数据来源: 赛迪顾问 2010.02

液晶ディスプレイ技術の進歩に伴い、液晶ディスプレイは携帯電話、デジタル製品、ノートパソコン、液晶テレビなど幅広い分野の製品に応用されている。

まず液晶テレビの普及は、LCD市場のめざましい伸びを維持するうえで最大の原動力となるだろう。平板ディスプレイの急速な普及に伴い、液晶テレビはポピュラーな主流商品となるものとみられ、現在の普及率からも液晶テレビ市場の潜在需要が巨大なものであることが分かる。なかでも一部の新興国においては、液晶テレビ市場はまだ産声をあげたばかりであるため、今後、新たなホットターゲットとなろう。液晶テレビの普及は必ずや大型サイズの液晶画面の大量需要をもけん引するはずだ。

次に、振興製品の応用が中小サイズの液晶画面市場において新たなホットターゲットとなろう。中小サイズの液晶画面市場では、デジタルカメラ、カーナビ、PNDなどの領域において、中小サイズの液晶画面の新たな応用対象となっている。振興応用市場の誕生に伴い、中小サイズの液晶画面の需要規模が拡大し、中小サイズの液晶画面市場における新たな需要増の目玉となろう。

CCIDの予測によれば、この先数年間、世界のLCD画面市場はなおも速い成長を維持し、販売量についていえば、年平均の複合成長率は24%に達し、2013年の世界の液晶画面販売量は54.8億枚に達する見込みという。販売額についていえば、年平均の複合成長率は21.7%に達し、2013年の世界のLCD画面市場規模は2496.2億ドルに達する見込みという。

(2)市場データ

2010年3月における国内レーザープリンターの機種売り上げランキング

3月	Top 1	Top 2	Top 3
HP	LaserJet P1007	LaserJet P1008	Laserjet P1505
SAMSUNG	ML-1610	ML-1641	ML-2010
Canon	LBP-2900	LBP-3018	LBP-3108
LENOVO	LJ2200	LJ2200i	LJ2250N
FujiXerox	Phaser 3117	Phaser 3124	Phaser 3125N
Brother	HL-2140	HL-2150N	HL-5240
LEXMARK	E120	E120N	E260d
Konic-Minolta	magicolor 1600W	PagePro 1350W	magicolor 2500W

LJ2200 はレノボが 2008 年6月に発売したビギナー向けのモノクロレーザープリンターであり、今もなお同社のレーザープリンター領域の主力商品となっている。ユーザーの対象は政府・教育機関、メディアなど幅広い。同機種の最大のセールスポイントは、レノボの新印刷技術「超速チップ」を使用し、22PPMの印刷スピードを備え、同時に 2400×600dpi(解像度)、280グラムの厚紙印刷に対応している点で、さらには1年以内であれば全国 100 都市で無料の訪問サービスが受けられるため、ユーザーは購入後の心配がない。このほか、LJ2200 は精巧な用紙送りロールを採用、ダブルのロールが摩擦力と精度を高め、印刷時に何枚もの用紙がくっついてしまう問題を避けることができる。

富士ゼロックスの Phaser3117 はビギナー向けのモノクロレーザープリンターで、印刷スピードは毎分 16 ページ、解像度は 600dpi、最初のページが印刷される時間が 10 秒以下、さらには8Mメモリポート、150 ページ収容の多用途用紙トレイを標準装備している。省エネ方面では、Phaser3117 はトナーカートリッジが一体式のデザインで、大容量のトナーカートリッジを使用した場合、最大 3000 ページを印刷でき、インク節約モードも備わっているためページあたりの印刷コストを節約できる。また、比較的リーズナブルな価格も同機種のアドバンテージのひとつで、こうした点が個人や中小企業など幅広いユーザーに支持されている。

(3) 予測データ

2007～2015年における国内のサーバー保有量の現状と予測

